

## 開館3周年記念「ピースまつり」開催

5月1日(土)・2日(日)

ピースあいち開館3周年を記念して、3回目の「ピースまつり」が2日間にわたって行われました。好天に恵まれ、450人以上の参加者があり、盛況のうちに終わることができました。

1日(土)、10時半オープン。野間美喜子館長の挨拶の後、管楽器中心で編成された「アンサンブル・ボヌール」のクラシックや唱歌の演奏で始まりました。その演奏は参加者を魅了しました。

前庭では昨年と同じ沖縄物産と産直野菜やフェアトレード店が開かれ、好評でした。3階では今年もバザーが大人気でした。

2日(日)は学童の父親で組織された「ペガサスちちバンド」のコンサートから始まりました。午後には「私の町千種区の空が焼かれた日」を歌う合唱団のコーラス、そして公募した「名古屋空襲を伝える作品」の表彰式も行われ、天野鎮雄賞、丹羽和子賞、山下智恵子賞が6人の

方に授与されました。

展示では「あいち平和映画祭」「平和の白鳩」「名大9条の会鶴舞支部」「WFPなごや」「アジア保健研修所」の活動が紹介されました。熱心に担当者の説明に聞き入る方が多くいました。昨年好評だった「おもちゃ病院・とんかち」には、壊れたおもちゃを直してもらおう親子が集まりましたし、「絵本読み聞かせ」では、朗読者の巧みな話術に子どもの笑顔があふれました。

各所に箱を置き、カンパを募りました。たくさんの方にカンパしていただき、感謝します。

準備にあたったスタッフや当日のボランティア、協賛された皆さまのおかげで成功裏に終わりました。ありがとうございました。



アンサンブル・ボヌール



産直野菜



ペガサスちちバンド



「私の町千種区の空が焼かれた日」



展示紹介



無料開放でにぎあうピースあいち



らむうのあのおくまやけふこえあてさきゆめしみえもせすん

ライオンも薬殺された  
麦飯、すいとん、さつま芋  
嘘ばかりの大本営発表  
慰問袋を送った世代  
喉元過ぎれば怖さを忘れる  
沖縄の犠牲者、二十万人  
クリスマス、サンタの来ない国もある  
「焼き場の少年」の写真に涙くむ少女  
負けない戦争でも、戦争は良くない  
原爆忌、鎮魂の歌を詠む  
普天間も嘉手納も基地はお断り  
この道はいつか来た道  
絵で訴える戦災被害  
手放してはならぬ民主主義  
争わぬ智恵を得る  
さらば核兵器  
「玉砕」という美名は悲し  
夢にしたくない核廃絶  
「目には目を」より対話で解決  
みんなの願い恒久平和  
集団自衛権で戦争に巻き込まれる  
永久の平和を誓う日本国憲法  
貧困と差別が共存する平和はない  
もつてのほか「戦争できる普通の国」とは  
世界に平和の鳩飛ばそう  
するな戦争壊すな地球  
「ん」で終わるイラン、アフガン、北朝鮮

## 「ピースあいち語り手の会」の多彩な活動

2010年6月28日(月)、「ピースあいち語り手の会」の第2回例会が「ピースあいち」の交流広場で開催されました。梅雨時、猛暑に近い気温のなか、名古屋をはじめ、岡崎、一宮、春日井などの遠方からもあわせて30名が参加されました。

09年度の活動として、戦争体験手記の募集、平和学習支援事業(小中学校への語り手の派遣)、「ひめゆり平和への祈り展」への協力などの事業報告がありました。

また、2010年度の活動計画は次のとおり示され、実施に移されています(10月1日現在)。

### (1) 平和学習支援事業

名古屋市立小中学校4校、名古屋市を除く愛知県下小中学校8校、計12校への語り手の派遣が決まっています。すでに刈谷市、蒲郡市、安城市及びあま市4校の小中学校への派遣が終了しました。以後、稲沢市、新城市など8校についても順次実施する予定です。

### (2) ピースあいち夏休み企画「戦争体験シリーズ」の実施

恒例の「戦争体験シリーズ」が今年も行われ

ました。8月3日から14日にかけて10人の語り手にご自分の戦争体験を語っていただきました。

猛暑の続くなか、参加した親子らが語り手の体験談に熱心に聞き入っていました。

### (3) その他の語り手の活動

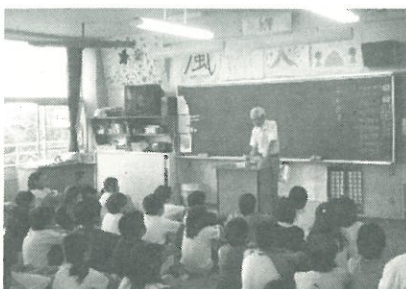
上記の事業のほか、各地から小・中・高校生たちが学校の課外活動として「ピースあいち」を訪れた際の「語り事業」や、学校からの語り手の派遣依頼に応じて語り手を派遣する事業も積極的に行っています。すでに4校、5団体の要請に応じて実施し、今後も要請に応じて語り手を派遣します。その他「ピースあいち」独自の語り事業も随時実施します。

### (4) 戦争体験手記の発行

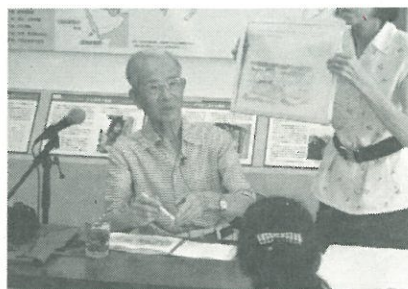
「ピースあいち語り手の会」の会員からの手記18編、「空襲のことを伝えよう市民作品展」に寄せられた手記21編を冊子にまとめ、10月中に発行する予定です。

### (5) 映像記録の作成

出演いただいた語り手の映像をビデオカメラで撮影し、DVDに保存します。



蒲郡北小で生徒達に語る加藤照さん



戦争体験シリーズで語る上野三郎さん  
(最高齢の96歳)



戦争体験シリーズで語る石田孝子さん



## 平和を願う いろはカルタ

「ピースあいち」では、「みんなでやる」ということをモットーとしています。いろんな知恵が生まれるからです。この「いろはカルタ」も、来館された方やボランティアの方々から寄せられた作品で構成しました。

い 遺書も残さず散った兵士

ろ 六月二十三日は沖縄忌

は 爆弾でなく、花びら舞い落ちる春を

に 「人間魚雷」という兵器

ほ ホント？アンボの安全保障って！

へ 平和公園に立つ被爆の桐二世

と 東京も火の海になった

ち 地上戦があった沖縄

り リーマンショックの元凶はだれ？

ぬ 「命（ぬち）どう宝」で生き抜いた

を 累々たる遺体、母と子も

る 沖縄には、まだ戦後がこない

わ 若者よ、命を大切にせよ

か 「語り部」を囲む小学生

よ よくもマア、騙され続けたもんだ

た 大砲よりバタ-

そ 歴史に学ぶ平和授業

れ 疎開の子、我慢の子

な 月に軍事基地は、不似合い

ね 念願は、戦なき世界

夏 夏の日、六日九日十五日

## この夏に開いたミニ企画展

### 「私の聞いた戦争・見たヒロシマ」展 (7/22~8/14)

—金城学院中学3年生の平和学習展示—

総合学習 (Dignity) の取組として行った修学旅行での広島被爆施設の取材や学内での被爆アオギリの植樹、平和新聞の作成、祖父母から聞いた戦争の話などを展示。教員による「私と広島」のパネルも。



「私の聞いた戦争・見たヒロシマ」展

### 「戦争と動物たち」展 (夏休み企画)

第Ⅰ部「ゾウを守った東山動物園」では、空襲で動物たちが逃げ出すことを恐れた国が全国の動物園に動物を殺すように命じ、東山動物園でもライオン、トラ、ゾウなどほとんどの動物が殺され、餌不足のため餓死した。その状況下で北園長は動物を守るため命がけで軍や警察に訴え、かろうじてゾウ2頭などわずかの動物の命を守ることができた史実を紹介。

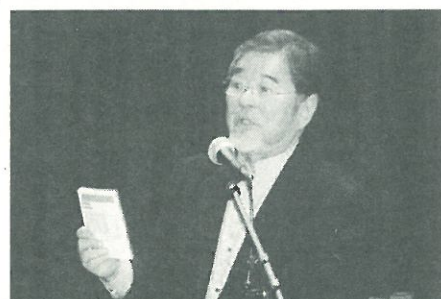
第Ⅱ部「戦時下の動物たち」では、軍用馬にするために農家から農耕馬が徴用されたたり、軍服や手袋の材料にするために家庭で飼われていた犬や猫たちを供出させられたことを紹介。



「戦争と動物たち」展

### 「愛知の空襲を読む」朗読会 (8月7日)

第Ⅰ部緑風の会による「名古屋空襲」「豊川工廠」、第Ⅱ部天野鎮雄さんによる城山三郎短編「捕虜の居た駅」の朗読。「雪国」を名古屋弁で読んだ逸話も紹介され、満席の会場を沸かせた。



「愛知の空襲を読む」朗読会

### 「アンネフランクとホロコースト」展 (8/17~9/11)

広島県福山市にある「ホロコースト記念館」からの貸し出し資料を展示。8月22日、ホロコースト教育資料センター・石岡史子さんの講演には、50名を超える参加者がありました。



「アンネフランクとホロコースト」展

2010年 所蔵品展「所蔵品に見る戦時の世相」  
2010年12月8日(水)~





# 戦争の記憶を語り伝える

## — 2010年戦争体験を語る集い —

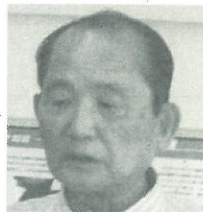
「ピースあいち」では、毎年夏に「戦争体験を語る集い」を開いています。今年は8月3日から休館日を挟んで14日まで10人の方に語っていただきました。いずれも高齢者ですが、遠い日の思い出を昨日のように淡々と語り、戦争の残酷さ、平和の尊さを訴える集いでした。毎回30人ほどの集まりで、総計は285人でした。なお、司会はその日の当番のボランティアが担当しました。括弧内は、語りの記録要約の執筆者（「ピースあいち」ボランティア）です。

### 名古屋での空襲、学童疎開のこと

佐藤 誠治

小学2年生で戦争が始まり、国民学校6年生で終戦を迎えました。当時、浜松に住んでおりましたが、連日のように空からは焼夷弾が落ち、家の床下に掘った防空壕で蒸し焼きにされてしまった人々のこと、また自身はグラマンの低空飛行で機銃掃射に遭い、塀にはりついて難を逃れたこと、そして遠州灘からの艦砲射撃をうけた恐怖を65年経った今も鮮烈に記憶しておられ、昨日の出来事のように話されました。19年の夏の終わりから学童疎開をした。人の身体、命がモノのように扱われる戦争はとにかく悲惨であると強調されたのが印象的でした。

(田中十四子)



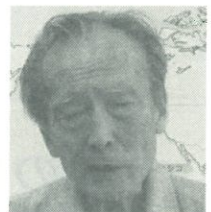
### 空襲、学徒動員の体験

吉田 理

満州事変は中国から戦争を仕掛けてきたと日本は国民をだまして戦いを仕掛けました。何故「満州戦争」と言わず「事変」と言うのか。1928年、「戦争放棄に関する条約」に調印、「事変」では戦争の決まりを守らなくてもよいからです。

1938年、重慶爆撃が始まりました。その様子をアメリカのルーズベルト大統領が見て激怒。その報復として日本国中の空襲が始まりました。軍国少年だったが鶴舞公園で火傷で死んだ桃色の遺体の山を見て、はじめて恐ろしくなり震え上がった。戦争は話を聴いているだけでは判らないが、戦争で得た唯一の宝物が日本国憲法だと思います。

(川北純子)



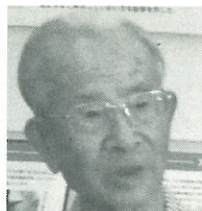
### 輸送船で撃沈された

上野 三郎

私は2回目の応召を昭和19年6月に受け、輸送船「扶桑丸」に乗りました。下関を出航して南下中にフィリピン島沖にてアメリカ軍の攻撃にあって船は撃沈しました。目の前の海は文字通り火の海になり地獄図そのものです。

たくさんの仲間が目の前から海中に消えていきました。私は無我夢中で近くにあったボートに乗り移りました。しかし、そのボートも危険になった時、本当に運良く別のボートが目の前に来たので、そのボートのロープを掴んで命拾いをしました。私は奇跡の連続で昭和21年2月に復員しました。亡くなられた方々の無念さを思うと、戦争はあってはならないと深く思っています。

(石原禧三)



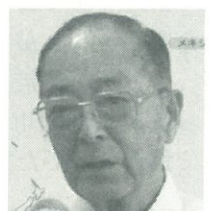
### 軍隊、満州モンゴル抑留、引き揚げ

加藤 圭治

20歳になる15日前に召集令状が来て、昭和20年2月に入隊し、黒龍江省に送られた。今では考えられない不条理な訓練をし、陣地構築作業などに従事した。8月9日のソ連参戦により戦闘が激化し、眠る間もなくチリ紙1枚の重さすら体感するほどの疲労困憊のなか行軍した。

23日頃に終戦を知り、27日頃に武装解除されソ連軍の捕虜となった。モンゴルに送られ、ウランバートル市の建設のための使役をさせられた。零下30度を超す極寒のなか食糧も十分に与えられず、栄養失調で命を落とす者も多かったが、2年のち、何とか生きて帰ることができた。

(田中十四子)





## 私の空襲体験

### 石田 孝子

私は昭和19年、名古屋女子商業の1年生で、現在は丸栄百貨店になっていますが、旧郵政省の前身である貯金支局で原簿を扱う仕事をしていました。空襲で思い出すのは、20年3月11日から12日の明け方にかけての空襲でした。それまでの空襲とは全然違って、すごい音と火花が散りました。私は家族3人で命からがら逃げました。

名古屋では終戦までに、60回以上の空襲があり、約1万4千トンの爆弾や焼夷弾が落とされ、7千8百人以上の人たちが犠牲になりました。これらの事実は決して忘れてはならないことです。

(阿部孝子)



## 名古屋空襲の体験

### 林 紀恵

昭和20年3月19日未明、栄区(現中区)の御園座附近を狙った米軍のすさまじい空襲。母と逃げ込んだ防空壕の入口付近にいた私は5歳。持ち込まれていた蒲団に焼夷弾の火がつき、慌てた大人たちは幼い私を次々に踏みつけて逃げた。私は死ぬと思った。

辛うじて命をとりとめ、桜山の叔父の家に身を寄せたが、そのとき、近所の大人たちは食うものの乏しい中、私たちにも食糧を分けて与えてくれた。5歳の子どもの味わった空襲と大人の恐ろしさ、そして優しさ…。(佐藤和夫)



## 4年間の中国戦線での軍隊体験

### 江口 勉

江口勉さんは名古屋市名東区在住、1921年生まれの89歳。21歳～24歳まで、中国の中部の上海～南部の遷江まで(往復約7000km)、食料は中国国民から調達、兵士の死は戦死より病死が多数。

軍隊生活は「自己責任」(今の日本と同じ?)。師団付きであったので、全体の動きから敗戦を予想できたが、前線の兵士は予測がつかずに戦っていた。「戦争で苦しんだことやつらさを知ってほしい」と語りました。(吉岡由起夫)



## 沖縄戦争で4回出撃した私の戦歴

### 浅野 善彦

現在83歳の浅野さんは、昭和18年、16歳で予科練(海軍予科練習生)に入り17歳で海軍飛行兵となり外地を転戦の後、18歳で沖縄戦に参戦されました。その時、海上10mで飛び、敵艦近くで魚雷を投下し、そのまま敵艦の上を跳び越し、再び10mで飛び去るという攻撃に4回出撃、奇跡的に生還されました。

予科練同期生650名の7割が亡くなり、うち37名は特攻隊員として18歳か19歳で亡くなりました。浅野さんは20歳前の若者に生死を迫る戦争の残酷さをたんたんと語られました。(後藤茂昭)



## 空襲、学徒動員の体験

### 青木 忠夫

大正15年7月生まれの青木さんは、御年85歳。主として名古屋城炎上の昭和20年5月14日の空襲について語られた。その日は、たまたま学徒動員先の工場に行かず、(西区域西町の)家にいたところ、焼夷弾4発のうち1発が物干しに落ち、必死で逃げる途中、お城が燃えるのを見たとのことであった。

その他、工場では爆撃機の「彗星」や「晴嵐」をつくっていたこと、戦時中の新聞が「勝った、勝った」とウソばかり報道していたことなど、お話は多岐にわたった。(稲田浩治)



## ルソン島での捕虜生活

### 加藤 英男

1920年生まれ。22歳で入隊、1944年12月26日小隊長としてフィリピン上陸。1945年8月下旬、ルソン島北部山中の野戦病院の無線機で玉音放送を聞く。直ちに武装解除され、貨物船でマニラを経由して、捕虜収容所のあるカンランバンへ移された。ほとんどの者は着たきり雀のぼろ服、素裸にDDTをかけられ今までに食べたことのない良質な食事にびっくりした。突然、戦争裁判の取調べが始まり首実検、検問を受けたが、幸い刑を免れ、1946年8月帰国できた。(大久保清子)





## 日韓高校生平和特派員が「ピースあいち」に来館

ゴールデンウィーク中の5月4日、韓国全州市と愛知県の高中生グループ28人が「ピースあいち」を訪れました。海外からの初めての見学団体でもありました。

この一行は『ハムケ（韓国語で「ともに、一緒に」という意味）日韓高校生平和特派員』と言い、2003年から交流を始めました。近くて遠い国と言われる日本と韓国ですが、高校生たちは両国の歴史に関係する地を訪れて、自分の目で見て、学び、自分で考え、平和を見据えて互いの理解を深めようと、交流を続けています。

このときは、ボランティアがガイドをし、それを韓国側の先生が通訳するという形で見学しました。（ガイドさんたちも多少緊張している様子でした。）

「ピースあいち」の展示を見聞きする韓国の生徒たちにとっては、日本の戦争を日本人がど

う学んでいるかを知る初めての経験でした。「ピースあいち」を訪れ、日本の市民の多くが、過去の歴史から学び、戦争を二度と繰り返したくない、平和を願い活動をしている、と知ってもらえたのではないのでしょうか。

高校生たちの残した感想アンケートのいくつかを紹介します。

日本でも戦争に反対する人がいることを初めて知りました。戦争だけを見て、日本人みんなを判断してはいけないことも気づきました。

また、戦争後の写真は本当に残酷でした。戦争と関係のない民間人まで殺されました。これから戦争は起きず、私も戦争のない世界にいたいし、後世でもこれ以上戦争は起きないでほしいです。（16歳 女）

我が国の戦争についてだけ勉強し、我が国のことしか知らなかった。日本のことがとても好きではなかったが、資料館に来て、日本も同じく大変だったということを知った。日本は、分断国家でもなく、憲法を定め平和を守ろうと努力している姿勢を見て、うらやましく、すごいと思った。（女）

日本は義務兵制ではないので、うらやましかった。戦争によって被害を受けた民間人がかわいそうだったし、戦争の怖さを改めて知ることができた。これから戦争は起きないでほしい。（未記入）

前までは、日本は我が国を支配して、日本についてあまりよく認識していなかったが、日本も他国から攻撃を受けながら、大変だったということがわかった。今回をきっかけに、過去の戦争や植民地時代に関する認識が大いに変わった。（16歳 女）



## さまざまな活動が軌道に乗った3年目 —第18回総会が開かれる—

2010年6月19日、「ピースあいち」の1階ホールにおいて、第18回の通常総会が開かれた。議事に先立って、野間美喜子館長が挨拶に立ち、大要、次のように1年を振り返った。

「ピースあいち」は、開館以来3年が過ぎた。開館当初は戸惑うこともあったが、昨今では活動基盤が整ってきた。

日常の運営については分業制を取り、イベント委員会、広報班、資料班、調査研究グループ、図書グループ、『ニュース』の編集スタッフなど、それぞれ担当部門の活動が軌道に乗り、さまざまな活動を展開することができ、感謝に堪えない。今後ともご支援をいただきたいと結んだ。

議事に入り、2009年度の事業報告のあと決算、



監査報告を承認。次いで2010年度の事業計画、予算を協議、決定した。

最後に、竹内宏一事務局次長が、「ピースあいち」の運営と財政を支えるのはボランティアの方々であり、今後とも来館者の増大、会員の拡大と財政基盤の確立が課題である。会員の努力と協力が求められていると訴え、参加者一同の賛同を得て、総会を終えた。

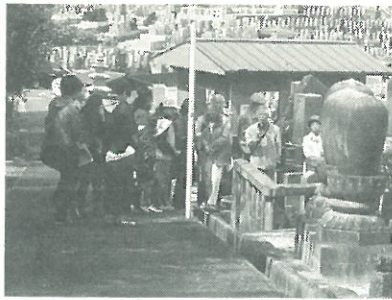






## ●平和公園戦跡めぐり

4月4日(日)、22名が参加して、桜満開の下、平和公園戦跡めぐりが行われました。当日は平和堂内部が公開されていたので、汪兆銘の南京政府が



宗春の墓の説明を聞く参加者

のために送られた千手観音像を見ることができました。被爆青桐、徳川宗春、大原幽学などの被爆墓石や陸軍墓地・ドイツ人やロシア人の外人墓地を見て、東邦高校の平和の碑で戦跡めぐりを終了しました。



広島被爆青桐二世



ロシア人墓地

## ●ピースあいち・メールマガジン(無料)をご購読ください。

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる情報発信メールマガジン。人気コラムNO.1は(意外にも?) 収蔵品から時代を読む「収蔵品から」、No.2はボランティアが常設展示を解説する「常設展示から」。「モノから何を読み解くか」から、筆者の人となりが見えてきます。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ピースあいち・メールマガジン 第9号 2010.8.25

8月24日、ピースあいちが愛知県教育委員会から名古屋市で「戦争体験者」に指定された。お祝いに愛知県内にも「戦争体験者」の指定を受けた。お祝いに愛知県内にも「戦争体験者」の指定を受けた。お祝いに愛知県内にも「戦争体験者」の指定を受けた。

◆これからの近況◆  
近況、ピースあいちの近況は、(1)こちらから  
[http://www.peace-aiichi.com/page\\_01/100825\\_vol.9-1.html](http://www.peace-aiichi.com/page_01/100825_vol.9-1.html)

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆戦争体験の「語り」◆  
「語り」は、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。語りは、戦争体験者から受け継がれる。

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

◆私の聞いた戦争、見た戦争◆  
金城学院大学 2010年12月 中田 隆夫

## ピースあいちの運営を支えてください。

本館の運営経費は、来館者の入館料と正会員、賛助会員の会費に頼っています。4年目の8月末現在入館者は2万6千人を越えました。

昨今は団体の見学が増加傾向にあります。主として小中学校ですが、社会人のグループも少なくありません。

会員は開館当初の295名から7月末で813名と拡大しています。正会員(年間会費6,000円)には年間無料で入館できる無料パスの特典があり、賛助会員(年間会費3,000円)には無料入場券を一枚お渡ししております。また団体・法人には「ピースあいち支援団体」(一口1万円)になっていただくことを願っております。お申し込みは郵便局の振込用紙、または「ピースあいち」で直接お申し込みください。

会員になってくださり、この「ピースあいち」を支えてください。

## 「ピースあいち」への交通のご案内



## 【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 観覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階にも「現代の戦争と平和」というテーマの展示と戦争に関するライブラリーがあります。1階で開催するイベントに参加される場合は、1階の展示及び図書の見学も自由にできます。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時間外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 駐車場がありません。公共交通機関でおいで下さい。

## ●編集後記●

このほど、当館が愛知県教育委員会から「博物館相当施設」に指定されることになった。これまでの活動が高く評価され、行政から公認されたことで、喜ばしい限りである。小中学校などの団体見学の誘致にも、さらに弾みがつくと思う。

「戦争体験を語る集い」の司会と「ニュース」原稿の執筆は、これまで事務局スタッフがしていたが、今年はボランティアの方々が担当した。当館のような市民運動は、「みんなでやる」というのが原則である。一人ひとりが少しずつ分担して仕事をこなす。皆さんは多士済々、心強い限りであり、まことにありがたい。(S)